



おじいちゃんの スプーン

3年1組
平塚優花

おじいちゃんの道、たどり

<https://www.google.co.jp/maps/@46.9928675,117.3379027,4.19z>





＜目 次＞

はじめに

… P. 1

1. 満洲

… P. 3

2. ソ連の侵攻と終戦

… P. 4

3. シベリア

… P. 5

4. イルワーツク

… P. 7

5. シベリアでの生活

… P. 9

(1) ラーゲル

… P. 9

(2) 強制労働

… P. 11

(3) 食べ物

… P. 13

(4) 衛生状態

… P. 15

(5) 日本語の文字の禁止

… P. 16

(6) 残くなつた人たち

… P. 16

6. ダモイ

… P. 18

7. 墓室

… P. 21

8. 遺骨収集

… P. 22



『おじいちゃんのスプーン』

はじめに

私のおじいちゃんは、とてもへんてこなスプーンを使っています。

そのスプーンの見た目はとてもきたないです。黒っぽい銀色のスプーンです。よく見ると、黒い小さな点がたくさん付いています。かざりもようのようなもの是一切ありません。持ってみると、とても軽くてザラザラした手ざわりでした。実際に私の家のスプーンと比べてみると、長さは20.5cmで、私の家のスプーンより2.3cm長いのに、重さは25gと、私の家のスプーンより7.5gほど軽かったです。それは、アルミニウムで作られていましたからだそうです。

なぜおじいちゃんは、このスプーンを使っていると思いますか？

理由は2つあります。一つ目は、自分が食べる時の角度がちょうどいいから。

(使いやすいから)。2つ目は、シベリアという所での苦しかったことを忘れないためです。



シベリアとは、ロシアのとても寒い地域で、おじいちゃんがいた頃は、ロシアではなくソ連と言いました。

おじいちゃんは、私が幼稚園生の頃から、自分はシベリアで捕りよになっていたという話をいつもしていました。しかし、くちしいことはよく分かりませんでした。そのことを今年の夏休みにおじい

ちゃんにくわしく教えてもらいました。

おじいちゃん

1. 満洲

おじいちゃんは昭和2年(1927年)
9月生まれで、今年89歳になります。
昭和19年(1944年)、17歳の時
に陸軍士官学校に合格し、12月に満洲
國軍士官学校へ入学しました。

満洲国は、今の中国の東北部に日本が
作った国です。学校は首都の新京(今の
長春)にありました。学校ではきびしい
訓練とむずかしい勉強をやっていました。
その頃はみんな、戦争が間ちがつたこと
などと思っておらず、お国(日本)と家
族のために、命をかけて戦うことが自分
のつとめだと信じていたそうです。

おじいちゃんが昭和20年1月にと
た写真は、満洲から家に送っていたので、
今も残っています。



ぼうかんぼう

この写真でかぶっているのは防寒帽と言い、左右の耳のようなものをたらすと、耳にかぶせることができそうです。

2. ソ連の侵攻と終戦

昭和二十年（1945年）8月9日、ソ連は日ソ中立条約（お互^いいの国を攻げきしない約束）を破って、突然満洲に攻めてきました。これは、長崎に原爆が落とされたのと同じ日です。おじいちゃんたちは、まだ学生でしたが、攻めてくるソ連の軍隊と戦う準備をしていました。それは、地面に穴を掘って、自分たちが

爆弾をかかえて穴の中に入り、ソ連の戦車がきたら穴から飛び出して戦車目がけて飛び込む、戦車特攻という方法でした。特攻というのは、自爆することです。私のおじいちゃんが自爆しようとしていたという話を聞いて、とてもショックを受けました。しかし、そうなる前に、昭和20年（1945年）8月15日、戦争は終りました。

おじいちゃんは「終戦」とは言いません。日本が戦争に負けたから「敗戦」と言います。

ソ連軍は、おじいちゃんたちに武器を捨てさせて、満洲にあつたいろいろなものをおもにソ連に運ぶために、荷物を積む作業をやらせていました。

3. シベリア

最初、ソ連は軍隊を全部日本へ帰すと言ったそうです。おじいちゃんたちは、

それを信じて、今の長春からずっと北へ行つた黒河というところから、凍つたアーレル川を歩いて渡つてソ連に入りました。そして、グラゴヴェシチエニスクというところから昭和20年(1945年)10月の終わり頃、汽車に乗せられました。おじいちゃんの同期生、約40人が連れて行かれたそうです。なんとその汽車は、人が乗る客車ではなく、荷物を運ぶ貨車でした。しかも、1ヶ月半もその貨車に乗せられていました。まだ、たらたえられました。

おじいちゃんたちは、これで日本に帰れると思つていました。日本へ帰るのなら東へ行くはずなのに、西に向かつているようで、おかしいと思いましたが、外に海のようなものが見えてきたので、「日本海だ!」と言つてようこんだそうです。

ところが、それは海ではなく、シベリアにあるバイカル湖という大きな湖でした。

おじいちゃんの通、た道

<https://www.google.co.jp/maps/?t=h&q=46.9928675,117.4379027,4.19z>



→ 行き

→ 帰り

4. イルクーツク

昭和二十年（1945年）12月12日、おじいちゃんたちは、シベリアのイルクーツク第三収容所に着きました。イルクーツクは、バイカル湖のそばにある町です。

おじいちゃんたちは、ここで捕りよに
なったということを知りました。おじい
ちゃんはその時 80 歳で、こトナに若い
のに捕りよになつたのは、おじいちゃん
たちくらいでした。

捕りよというのは、戦争中に敵につか
まつた人のことをいうのですが、ソ連
は戦争が終わってから、だまし工連れて
行つたので、実際は、誘拐されたような
ものでした。日本が戦争に負けたことを
認めて受け入れた。『ポツダム宣言』で
は、日本軍は武器を捨てた後、家に帰つ
て平和な生活ができることになつてしま
つたが、ソ連はこのことを無視して、お
じいちゃんたちを連れて行つてしまひま
した。

歴史上ではこのことを『シベリア抑留』
と呼んでいます。厚生労働省によると、
旧ソ連に抑留された人は、約5 万 5 千
人で、このうち 5 万 5 千人の人が亡くな

3. せいじゅうじゅう

ったとされてています。(厚生労働省ホーページ『シベリア抑留中死亡者に関する資料の調査について』)

5. シベリアでの生活

(1) ラーゲル

おじいちゃんたちは、バイカル湖の近くの山の中にあるオロハ村の、第18ラーゲルとい所に入れられました。ラーゲルは、作業目的別に作られた収容所だつたようで、第18ラーゲルは、木を切り、鉄道を敷いたりするラーゲルでした。

ラーゲルは鉄条網に囲まれて、監視塔には24時間ロシア兵が監視していました。建物は丸太を組んで、苔ですき間を埋めた粗末なものでした。おじいちゃんはよく覚えていないそうですが、取り調べがあり、それが登録簿に記録されました。その記録は、今ではロシアか

ら日本の厚生労働省にデータが引き渡されていて、おじいちゃんは、その写しを厚生労働省からもらっています。

2

МВД СССР	
Главное Управление по делам о военнопленных и интернированных	
Арх. № 0000002	
УЧЕТНОЕ ДЕЛО	
№ записи в архиве	№ в деле
52	12785
На военнопленного <u>Курдюмов</u> <u>Иван</u>	
дата	
Дело завершено в связи с	
19 г.	

10 запись № 12785

1. Фамилия: <u>Курдюмов</u> Иван	10. Часы на записи: <u>10.00</u>
2. Имя: <u>Иван</u>	11. Документ: <u>Паспорт</u>
3. Отчество: <u>Иванович</u>	12. Дата к выдаче документа: <u>24.07.85</u>
4. Год и место рождения: <u>1927 г. Таджикистан, Бондарево</u>	13. Окончание срока: <u>24.07.86</u>
5. Пол: <u>Мужской</u>	14. Место рождения: <u>Бондарево</u>
6. Национальность: <u>Таджик</u>	15. Место жительства: <u>Бондарево</u>
7. Гражданство: <u>СССР</u>	16. Документ о гражданстве: <u>Паспорт</u>
8. Род занятий: <u>Медик</u>	17. Код записи: <u>12785</u>
9. Дата (последней записи)上次登记: <u>15.07.85</u>	18. Дата (последней записи)上次登记: <u>15.07.85</u>
10. Место (последней записи)上次登记: <u>Бондарево</u>	19. Код записи: <u>12785</u>

Бондарево 15.07.85 г. Бондарево 15.07.85 г.
Иван Курдюмов

ここには確かにおじいちゃんのサインが入っているそうです。登録簿では、おじいちゃんのお母さん（私のひいおばあちゃん）の年齢が間ちがっていたり、

「ヒラツカ」が「ヒラヅカ」になってしまったりします。このデータは個人情報なので、一般には公開されません。

(2) 強制労働

ソ連は、おじいちゃんたちを強制させるためにシベリアに連れて行きました。寒い季節は、木を切る作業が中心でした。私が「切った木はどうするの?」とおじいちゃんに聞いてみると、「知らないよ。切れって言われたから切っただけだよ。」と言っていました。ちなみに、あたたかくなると木のヤニがのこぎりにべったり付いてセカリにくくなるので、寒い時に木を切るのだそうです。

あたたかい季節になると、湿地帯を埋めてシベリア鉄道の線路を敷く作業や、炭鉱の石炭を積む作業をさせられていました。

作業は3つの時間帯の担当に分けられていきました。

① 8時～16時

② 16時～24時

③ 24時～8時

途中で担当が変わるために、たとえば①だったのが②になってしまふと、その間の16時間は、なることもできませんでした。

12月のシベリアは、マイナス30度からマイナス50度にもなります。マイナス40度より寒くなると、外での作業は中止になりますが、ロシア兵は寒暖計をこすってごまかして、マイナス40度より寒くても外で作業をさせていたそうです。

それから、捕り上を僅かせた場合は、国際法上では賃金を払わなければなりませんでしたが、ソ連では賃金を払わず、食料も満足に与えず、重労働をさせてい

ました。その代わりに平成19年になって、抑留された人々は、日本政府から特別慰労品をもらいました。ギフト・カードのようなもので、おじいちゃんは何か食べ物を買って食べて、それでおしまいというこでした。

平塚久夫 殿

先の大戦における御労苦
に対し心から慰藉の念を
表し特別慰労品を贈呈
します

平成19年8月31日

内閣総理大臣

安倍晋三



(3) 食べ物

食べ物は朝と晩の椎菜粥とお昼の黒パンだけでした。私は「少ないな」と思いました。黒パンは次の日のお昼の分を前の日の晩にくれるのですが、お腹がすいているので、おじいちゃんはその日のう

ちに食べてしまつたそ�です。だから次の日のお昼は、食べる物がないので、休けいの1時間はたき火をして温かい所でなるしかながつといひます。

食べる物はお粥ばかりなので、スプーンだけあればよかったです。おじいちゃんは、ある時拾ったスプーンがとても使いやすくて気に入つていて、他のラーメルに移された時も、このスプーンをいつも大事に持っていました。それが今も使つてゐるスプーンです。



おじいちゃんたちが連れて行かれたば

かりの昭和21年（1946年）は、とても寒く、8月31日に雪が降ったといいます。ウクライナ地方で作物があまりできなかつたため、ソ連では食料が不足していました。おじいちゃんたちの食料は満州から運んできたものでしたが、ロシア兵は人が食べられるような物は横流にして売ってしまい、馬のえさにするような物を使っておじいちゃんたちのご飯を作っていたそうです。

（4）衛生状態

着る物が足りないので、着ている物もボロボロで洗たくもしないので、汚れぼうだいでした。お風呂も浴そうはなく、体を洗う時は、ドラム缶でわかした洗面器3杯のお湯しか使えなかつたので、シラミがわいてかゆかったそうです。このシラミが、多くの人が亡くなつたマラチフスの原因でした。

(5) 日本語の文字の禁止

日本語の文字は×ものようなものも禁
止されていました。しかし、七くなっ
た人の遺族の住所を書いた×モを細長く丸
めて、ファンドンに折り込んで持ち帰った
人もいたそうです。

(6) 七くなつた人たち

食べる物も食べずに、とても寒い所で
重労働をさせられていたので、シベリア
で七くなつた人の多くが栄養失調でした。
それ以外の人は、ツバキオフスなどの伝染
病で七くなっています。おじいちゃんの
同期生も1人栄養失調で七くなっています。
ひどかったのはこの最初の1年(1
946年)で、この年で大勢の人が七
になりました。

七くなつた人は、着ている物を全部ぬ
がされ、ターナカという車に何人もの遺
体を乗せて、縄でしばって運びました。

多い時は1日に20人くらいの人人が亡くなりました。はだかにする理由は、だれの遺体か、わからなくなるためなのです。おじいちゃんは言っています。

夏にはあまり人は亡くならず、多くの人は冬に亡くなつたので、土が凍つてコンクリートのようにかたくなり、次の年に土がとけるまで埋められなかつたそうです。

鼻や耳は血管が細いので、寒さに弱く、寒くなると凍つて白くなります。足の指も同じで、おじいちゃんの足の指が凍傷になつて親指が変形しています。

おじいちゃんは、このような生活を「地獄のような生活だった」と言っています。

ロシア語で帰国のことを「ダモイ」と言います。おじいちゃんたちは、ロシア兵から「ダモイ」と言われる日を待ちにしていました。

6. タモイ

おじいちゃんは、次の年の昭和22年（1947年）1月15日に第9ラードルに納されました。ミトナボロボロになつていたので、炊事の手伝いでジヤガイモをむく作業などをさせられていました。ジヤガイモばかり食べていたので、ここでは太ったそうです。

少し元気になってきたので、3ヶ月後の4月14日、おじいちゃんは製材作業を中心に行う第3ラーダルに納されました。しかし、作業は水道管を埋める6mの穴を掘ったり、建物の解体をしたり、何でもやらされました。

この年の7月、おじいちゃんはビルの解体工事中に4階から転落して3階に突き出していた梁に横腹を打ち付けて気を失うという事故にあいました。高熱が出て、痛みもひどかったそうですが、薬もなく、ただ寝ていていた。

そのけがが治らないうちにタモイ(帰国)の人選があり、負けなくなってしまったおじいちゃんは、そのメンバーに入ることができました。しかし、おじいちゃんの同期生の中には、その後2年も3年も帰れなか、大人もいたそうです。

昭和22年(1947年)8月26日、おじいちゃんは、もう一人の同期生と共に夕駅の第3824号客所に移され、そこから汽車に乗りました。

シベリア鉄道で移動しましたが、途中でしばらく放っておかれたりしたので、目的のナホトカ港に着いたのは10月でした。9月生まれのおじいちゃんは、その間に20才になっていました。

ナホトカ港から船に乗り、て3日か4日で、やっと京都のまいづる港に着きました。このまいづるの引揚記念館にあるものは、現在『ユネスコ世界遺産』になっています。

おじいちゃんの通、大道

<https://www.google.co.jp/maps?ll=46.9928675,117.3379027&zoom=14>



→ 行き

→ 帰り

おじいちゃんの持ち物は、帰る時の検査でソ連に取られてしましましたが、気に入っていたスプーンは持ち帰ってきました。おじいちゃんのスプーンは、こうやって日本にやってきました。

おじいちゃんは、やっと日本に帰りましたが、外国から引き揚げてきた人が病気を日本に持ち込まないための検疫

をするので、すぐには日本に入れません
でした。家に帰れるようになつたのは昭
和二十二年（一九四七年）十一月のはじめ
でした。

7. 帰宅

おじいちゃんの家族はみんな、おじい
ちゃんがいつ帰ってくるのかと心配して
いました。これは、私のお父さんがおじ
いちゃんの兄弟から聞いた話ですが、お
じいちゃんの帰りをみてながら待っていた
ある日、おじいちゃんのお母さんとが買い物
をしていると、後ろから「よお！」
と肩をたたかれました。ふり返ると、お
じいちゃんが立っていたそうです。

これが3年振りの親子の再会だったとい
います。おじいちゃんに聞いたら、住ト
ていた家は空襲で焼けてしまつたから、
家族が移り住んでいるという所に向かっ
ている途中、たまたま酒屋さんの前に自

分のお姉さんがいたのを見かけたので、
声をかけたと言っていました。

8. 遺骨収集

おじいちやんの同期生は全部で375名。満洲、北朝鮮、シベリアで100名近くの仲間が亡くなりました。おじいちやんに話を聞いた時点で、生きているのは85名だけとなっていました。

シベリアに抑留されたのは、おじいちやんたちイルワーツクに行、た約70名の他、ブカチャーナヤという所にも約240名が連れて行かれました。

シベリアで亡くなつて日本に帰れなかつた同期生の遺骨を日本に連れて帰るために、生き残った同期生たちは、何度も厚生労働省の人やボランティアの学生さんたちとシベリアに行きました。おじいちやんも平成3年に参加して、ナタ市という所に建てた立派な慰靈碑にお参りにも

行つたそうです。

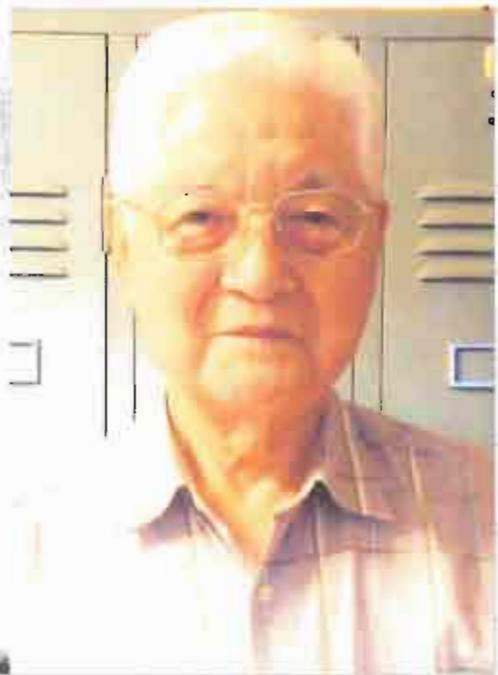
イルクーツクで亡くなつた同期生の遺骨は、埋めたはずの所から出てこなかつたそうです。そこにはロシア人の墓地が作られていて、遺骨はじこかにやつてしまつたのではないかとおじいちゃんは言つています。

ブカチャーチヤでは82名の遺骨が見つかりましたが、どれがだれの遺骨か分かりませトでした。

こうして見つかった遺骨は、同期生の胸にだかれて帰国し、だれの骨かも分からぬまま、皇居の北西側にある十鳥ヶ淵の戦没者墓苑に納められ、毎年立派な慰靈祭が行われているとおじいちゃんは教えてくれました。

最後におじいちゃんはこう言つています。「戦争は敵も味方も尊い命をうばいます。不幸な人が大勢うまれます。絶対にしてはいけないと思います。」

そして、おじいちゃんは、そのことを
いつも忘れないために、シベリアのスフ
ーンを使っているのです。



平塚 久夫 殿

戦後酷寒の地において長期間にわたって劣悪な環境の下で強制抑留され過酷な強制労働に従事し多大の苦難を強いられた御勞苦に対し政府として衷心から慰藉の念を表します

平成二十二年十二月

内閣総理大臣
菅 直人

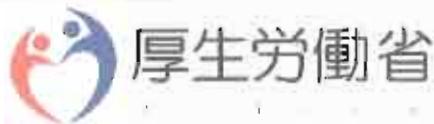


おわり

次
見

米
斗

集



シベリア抑留中死亡者に関する資料の調査について

厚生労働省では、ロシア政府等から提供された抑留中死亡者の名簿について、日本側資料との照合調査を行い、名簿に登載されている死亡者の特定に努め、特定できた死亡者の関係遺族に対して、都道府県を通じて名簿の記載内容をお知らせしております。

ロシア政府等に対し、未提供名簿について、更なる調査・資料提供を要請しております。

シベリア抑留中死亡者

終戦間近の昭和20年8月9日、旧ソ連は参戦し、終戦後旧満州、樺太、千島から約57万5千人の軍人等をシベリア等に強制抑留し、多くの方が亡くなられました。

(1)旧ソ連地域に抑留された者	約 575,000人(うちモンゴル約 14,000人)
(2)現在までに帰還した者	約 473,000人(うちモンゴル約 12,000人)
(3)死亡と認められる者	約 55,000人(うちモンゴル約 2,000人)
(4)病弱のため入ソ後旧満州・北朝鮮に送られた者等	約 47,000人

旧ソ連地域・モンゴル概見図



(注)丸数字は、ロシア政府等から提供された抑留中死亡者名簿に、収容所・埋葬地の記載がある地域です。

これまでの取組

1991年(平成3年)に、日ソ間で「捕虜収容所に収容されていた者に関する日本国政府とソヴィエト社会主义共和国連邦政府との間の協定」(以下「協定」)が締結され、約3万7千人分の抑留中死亡者名簿が引き渡されました。その後も協定を継承したロシア政府等から数次にわたり死亡者名簿等が提供され、現在約4万1千人分の名簿が提供さ

これまでにロシア政府等から提供されました名簿については、以下にて閲覧できます。

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/syakai/soren/index.html>

旧ソ連側より提供された約4万1千人分の名簿と日本側資料とを照合することにより、約3万2千人については、死亡者が特定されており、ご遺族の所在が判明した場合には、提供された名簿の記載内容をご遺族にお知らせしております。また、平成17年にロシア政府から提供された抑留中死亡者個人資料につきましても、資料を希望されるご遺族に対して、写しを提供しております。

しかしながら、厚生労働省推計の抑留中死亡者約5万3千人(モンゴル除く)と比較すると、未だ約1万2千人の名簿が提供されておらず、また、名簿の提供はありましたか情報不足等の約9千人の併せて約2万1千人が死亡者の特定に至っておりません。厚生労働省では、未特定者約2万1千人分の名簿(ロシア語)のデータをロシア政府に提供して、更なる調査・資料提供を要請しております。

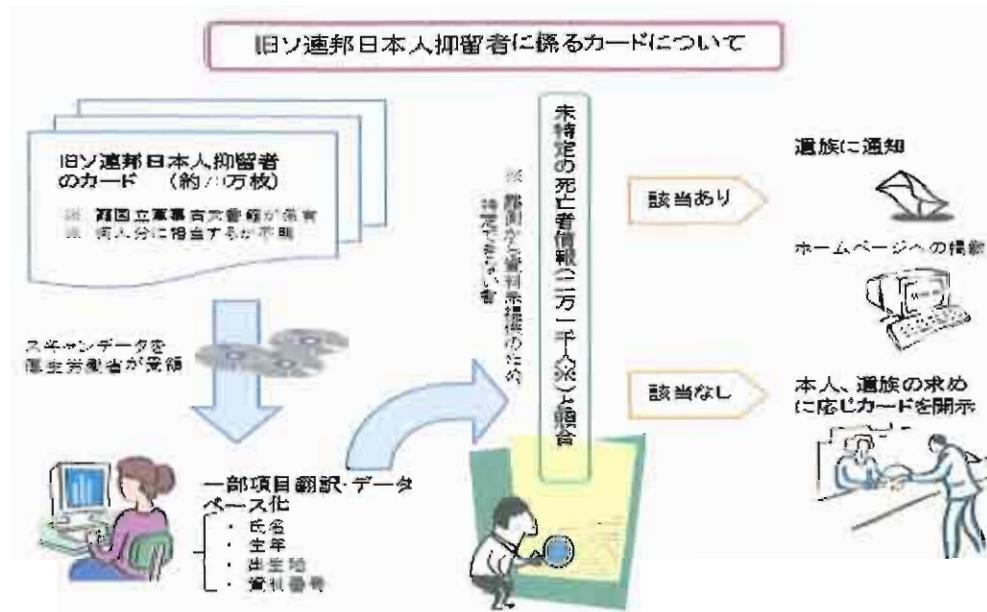
また、モンゴル政府からも、平成3年に約1千6百人の抑留中死亡者名簿が引き渡され、これまでに約1千4百人の死亡者が特定されており、ご遺族の所在が判明した場合には、提供された名簿の記載内容をご遺族にお知らせしております。

今後の取組

ロシア国立軍事古文書館に約70万枚の旧ソ連邦日本人抑留者に係るカード(一人につき複数枚作成されているものもあることから、何人分に相当するのかは不明です。)があり、抑留中死亡者の未提供情報が含まれていることが判明したことから、本年10月、カードの写しの引渡しに関する合意書を締結し、カードの写し(DVD画像データ)を入手することとしました。本年12月から順次受領することとしております。

受領後は、未特定者約2万1千人の名簿と該当カードとで照合調査を行い、未特定者のカードを抽出し、該当カードと日本側資料等とを突合して死亡者の特定を行います。

特定された死亡者については、本籍都道府県に遺族調査を依頼し、ご遺族の所在が判明した場合には、本籍都道府県を経由してカードの記載内容をご遺族にお知らせするとともに、厚生労働省ホームページに死亡者の氏名を掲載することとしております。



○ お問い合わせ先

厚生労働省社会・援護局業務課調査資料室



シベリアから引き揚げて来た人々
ち=京都・舞鶴で1946年12月撮影

シベリア抑留実態解明を 未特定1万5000人、残る遺骨3万5000柱

寄稿 有光健(シベリア抑留者支援・記録センター代表世話人)



敗戦後の1945年8月23日にソ連軍最高司令官スターリンが50万人の日本兵のソ連移送を命じてから7年を数える。60万人を超える武装解除された日本兵らが「東京に帰す(ダモイ・トウキョウ)」とだまされて、シベリアから中央アジア、北極圏やモンゴルまで送られた。ポツダム宣言にも、捕虜の取り扱いを決めた国際人道法にも

違反する、大規模な拉致だった。軍人・軍属だけでなく、民間人も女性も少年もいた。日本兵の中には朝鮮や台湾出身者もいた。

多くは3~4年で帰国しているが、戦犯やソ連国内法違反者とされた長崎抑留者は56年10月に鳩山一郎首相が訪ソして調印した日ソ共同宣言によつて、ようやく同年12月に帰国した。ソ連からの

違反する、大規模な拉致だった。軍人・軍属だけでなく、民間人も女性も少年もいた。日本兵の中には朝鮮や台湾出身者もいた。多くの囚人が飢えと寒さと強制労働で死亡したが、ソ連は綿密な使役計画を立て、一人一人の個人資料を記録として残していた。カード

で約70万人分、個人資料印された。ソ連側から厚生労働省に引き渡され、本人や家族が申請すれば、「ピート(原文はロシア語)」が翻訳付けて提供されている。

所の収容所に収容され、それぞれ何人が亡くなつたのか?死因は栄養失調が何割だったのか?

労働は、森林伐採、鉱山労働に何割、鉄道建設、道路工事、工場労働にそれぞれ何割の人材が投入されたのか。そうした労

働の総体は戦後のソ連社会の復興や建設に何程度の貢献をしたことにな

るのか? その結果、なぜこのよう

悲劇は防げなかつたのか? その原因は、何故に悲劇が起きたのか?

別、併せて「五重苦」の

人権侵害を強いられたのか?

死因は栄養失調が何割で、赤痢やチフ

スが何割だったのか?

労働は、森林伐採、鉱山労働に何割、鉄道建設、道路工事、工場労働にそれぞれ何割の人材が投入されたのか。そうした労働の総体は戦後のソ連社会の復興や建設に何程度の貢献をしたことにな

るのか? その結果、なぜこのよう

悲劇は防げなかつたのか? その原因は、何故に悲劇が起きたのか?

0年によつやく「戦後強制抑留者特別措置法」があまり進んでいない。厚労省が以前から取り組んできた死亡者情報の特定は、一部の新聞報道

戦後65年たつた2010年によつやく「戦後強制抑留者特別措置法」があまり進んでいない。厚労省が以前から取り組んできた死亡者情報の特定は、一部の新聞報道

依然土まんじゅうのままの埋葬地もある。厚生労働省が特定した埋葬地は224カ所だが、收容所は2000以上あるといつた。全体で何万人が移され、正確に何方が移され、正確に何力

事件は戦後に起きたのに、他の戦争被害一般との同列の扱いでよいのか? が、残念ながら実態解明はあまく議員立法で制定されたが、残念ながら実態解明はあまり進んでいない。厚労省が以前から取り組んできた死亡者情報の特定は、一部の新聞報道

が、残念ながら実態解明はあまり進んでいない。厚労省が以前から取り組んできた死亡者情報の特定は、一部の新聞報道

が、残念ながら実態解明はあまり進んでいない。厚労省が以前から取り組んできた死亡者情報の特定は、一部の新聞報道

が、元抑留者の悲願であり、早急な対応を求めていた日本人同士の鬭争、「シベリア帰り」と疎んじられれた帰国後の深刻な差

が、元抑留者の悲願であり、早急な対応を求めていた日本人同士の鬭争、「シベリア帰り」と疎んじられれた帰国後の深刻な差

МВД СССР

ソ連邦内務省

Главное Управление по делам о военнопленных и интернированных

主計課・捕虜・難民者統理總局
Главное Управление по делам о военнопленных и интернированных

Арх. № 0000662

Арх. №
公文書番号

Оя 101662

№№	№№
наименование	наименование
32	13715

УЧЕТНОЕ
ДЕЛО

№№ лагеря и или спасибо-п итания	№№ уч-дата
收容所	登録簿冊号
第32收容所	院番号
-	-

УЧЕТНОЕ

ДЕЛО

登録簿

На военнопленного

姓氏と諱名

姓氏

父姓と父の姓

На военноплененного

ヒラジカ

(Фамилия) (姓)

ヒサオ

(Имя и отчество) (名および父姓)

Дело закончено в связи

1944年19月19日

Дело закончено в связи

本件は、※に伴い終了。

194 年 月 日 (記載なし)

氏名、住所等の開行名詞について主にヒラジカの姓と本件の終了により翻訳しています。」

(厚生労働省から開示された資料)

41	Надпись восинопечатного и дата заполнения от расчетного листа 「吉野義久」署名桂上 1947年6月17日	平塚久夫
----	--	------

Появилась воспроизведенного и дата заполнения определенного листа

美久塚半

<u>СЛОВЕСНЫЙ ПОРПРЕТ:</u> <small>(人物描述)</small>	рост (рост) средний	телосложение (体格) 正常
	имет волосы (头发的色) чёрные	цвет волос (头发的色) 黑色
	нос (鼻子) широкий	нос (鼻子) 阔鼻
		<u>ОСОБЫЕ ПРИМЕРЫ:</u> (特征) 特徵

СЮВЕЧНЫЙ ПОРТРЕТ: Poet — Професия — постложение — расследований
лица волос — репортаж — глаза — реакции:
нос — репортаж — нос — носа

ОСОБЫЕ ПРИМЕТЫ;

1947年8月26日 マリタ駅の第382収容所に転出。
「マリタ駅」は、イリノイ州

卷之三

Изменение в движении
Учел 1.107. № 8822 Ви. Маршрут 28. 1. 19.

【語訳】 第3回の序欄「タヒストの活劇」について
タヒスト語訳文によれば、Mannuukeraとあります。『鐵道機關上』、「舞台裝置係」といった訛語を当てるのが、一般的で
しかし、本では、「生活問題欄に」記載されるところから、女性 Mannuukera(タヒスト) または
たゞ絆恋女(たゞくわいじょ)の意の訛記であると推定し、後も姿と思われる訛語を選択しています。

Лагерь № 32

Хирадзуми
Хисао

1. Фамилия
2. Имя
3. Отчество
4. Год и место рождения 1927. Токио-то, Токио
5. Национальность японец
6. Гражданство японское
7. Профессия ученик
8. Род войск пехота
9. В какой (последней перед плениением) части служил армия, гарнизон, подразделение

Учетное дело № 13715
Арх. № 0101662

10. Чин или звание сержант
11. Должность рядовой
12. Дата и место плениния 22.4.45 г. ул. Ганьчжоу
13. Отметки о движении 12.11.45 г. прибыл в 10.10.
Суйфын 8.9.45 15.1.47 г. прибыл в 320 19.4.47.
Улан-Батор 107. № 382 в 19.4.47.
Маньчжур. 26.2.47.

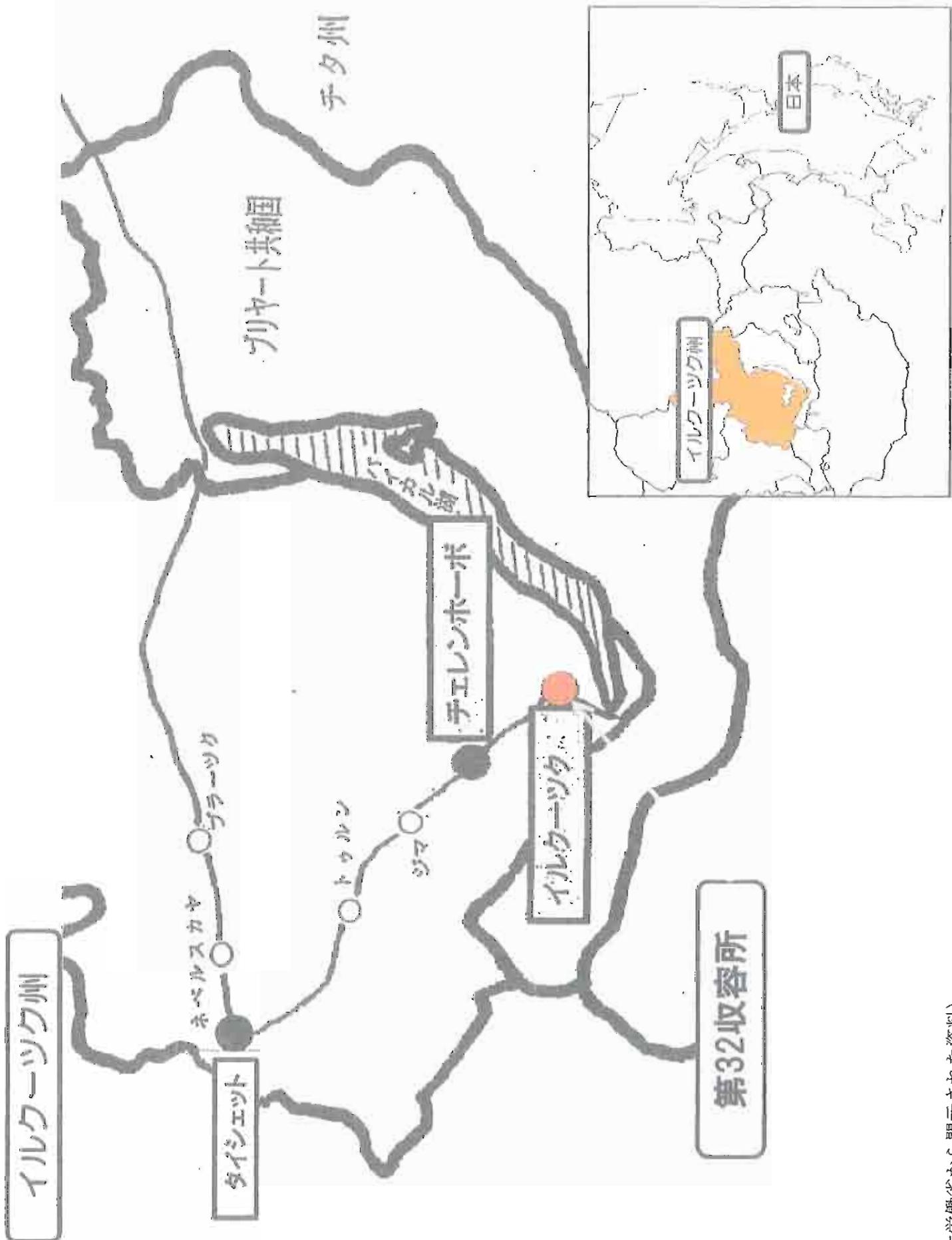
22. VI 1946 года. Подпись сотрудника,
МАГУ заполнившего картотку

Григорьев

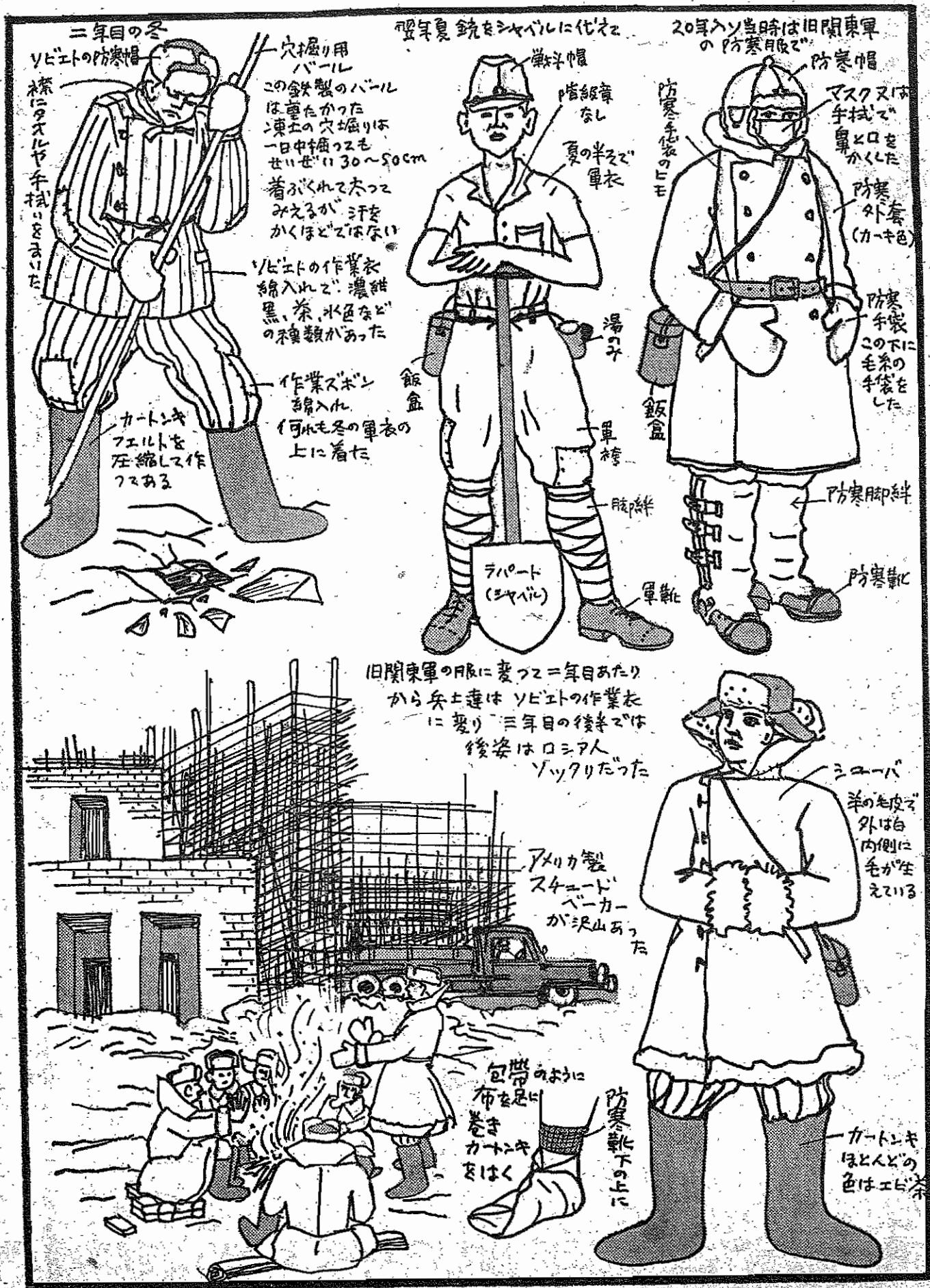
○ 「抑留者登録カード」の記載内容

収容所	第32収容所	10 階級	伍長
1 姓	ヒラヅカ	11 職務	兵
2 名	ヒサオ	12 捕虜になった日時	1945年8月22日
3 父称	一	捕虜になった場所	チャンチュン（長春）市
4 出生地	トキナト（東京都）トヨシマク（トヨシマク）スカト 7-1718番地	13 移送記録	
出生年	1927年（昭和2年）	1945年12月12日、収容所第18支部に到着。 1947年1月15日、収容所第9支部に到着。 1947年4月14日、収容所第3支部に到着。 1947年8月26日、マリタ駅※の第382収容所に転出。 (※「マリタ駅」は、イルカツク掛ウソーリスク地区マリタ村に位置します)	
5 民族	日本人		
6 国籍	日本		
7 職業	なし		
8 兵種	歩兵		
9 捕虜になる前の所属部隊	関東軍 軍官学校		
登録簿番号 13715 公文書番号 0101662		カード作成日	1946年7月27日
		カード記入担当官 サイン	[署名]

(厚生労働省から開示された資料)



(厚生労働省から開示された資料)





歴史証言「シベリアの日本兵捕虜」



平塚久夫 殿

先の大戦における御労苦
に対し心から慰藉の念を
表し特別慰労品を贈呈
します

平成 19 年 8 月 31 日

内閣総理大臣

安倍晋三



平塚 久美 殿

戦後酷寒の地において長期間
にわたって劣悪な環境の下で
強制抑留され過酷な強制労働
に従事し多大の苦難を強いられ
た御労若に対し政府として
衷心から慰藉の念を表します

平成二十二年十二月

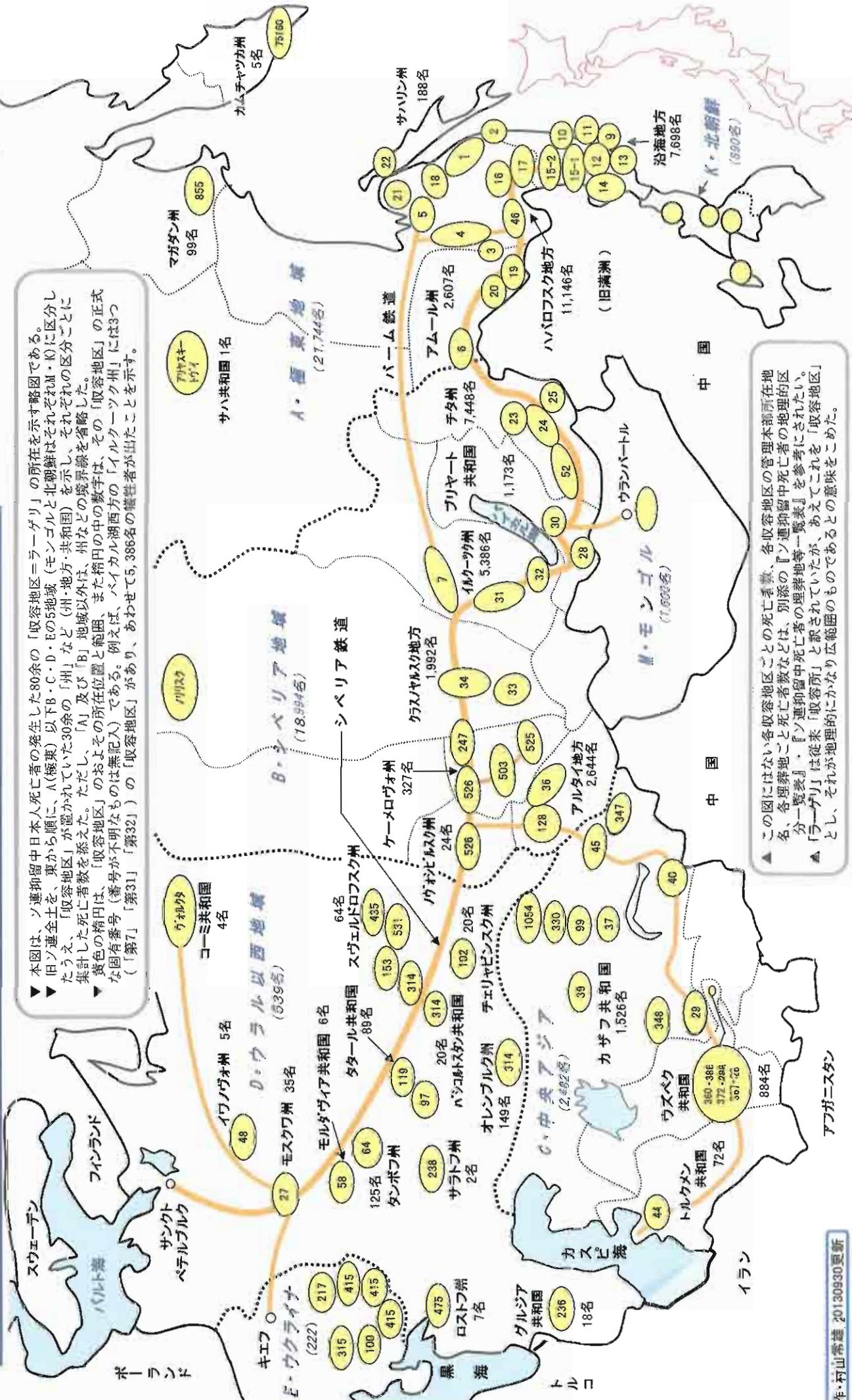
内閣総理大臣

菅 直人



ソ連抑留日本人收容地区の所在と各地域ごとの犠牲者数

村山常雄編『ソ連抑留中死亡者データベース』
全46,571名(2013年9月現在)に基づき制作



Google オルハ



画像 ©2016 DigitalGlobe、地図データ ©2016 Google

200 m